

## 16 空気流動ベッドを使用して褥瘡治療を受けた患者の思い —空気流動ベッドの使用感をまじえて—

病院 看護部 5階病棟 佐藤龍子 村田祐子 渡嶋真由美

### 1. はじめに

当病棟には、空気流動ベッド・エアーフローティングサポートシステム（以下空気流動ベッド）が3機あり、褥瘡手術後の創保護管理、難治性又は多発褥瘡の創管理の目的として使用している。今回、空気流動ベッドを使用し褥瘡治療を受けた患者がどのような思いで日常を過ごしているのかについて、ベッドの使用感を含めて明らかにすることを目的とし、今後治療に対する精神的サポートと、使用する患者への説明やかかわりに活用したいと考え調査したので報告する。

#### 用語の定義

思い：褥瘡治療中に率直に思ったこと、又は考えたこと。

### 2. 研究期間と対象

平成18年5月から平成18年10月迄に当院5F病棟に褥瘡治療の為入院している患者で、空気流動ベッドを使用した患者3名。

### 3. 結果・考察

患者が語った内容は、時間の経過にしたがって思いの移り行きが明らかに表現されており、その移り行きに沿って分類した。患者の思いは自分自身の思いが主であり、その内容は4つのカテゴリーに分類できた。

#### 1) 入院時・・・考える余裕が無く漠然とした思い

看護師は患者に思っていることを十分吐き出せるようコミュニケーションをとり不明点に関して説明し、今ある自分の状況を的確にあるがままにとらえられるように精神的サポートをしていくことが必要。

#### 2) 空気流動ベッド使用中・・・空気流動ベッドへの期待と快適な思い

空気流動ベッドという1つの物品が治癒しようという思いのきっかけを作ったと思われる。

#### 3) 空気流動ベッド使用開始～約1ヶ月・・・治療、リハビリに対する思い

褥瘡に対しては、医療スタッフからの言葉や褥瘡写真を見ることで治療に向き合っていたと思われる。焦りに対しての精神的サポートも必要。

#### 4) エアーマットに戻る前後・・・再発予防、リハビリ、今後の生活に対する思い

体位変換を主に褥瘡再発予防の指導を行なうことで患者の不安の軽減を図れるだろう。また指導した内容が受け入れられやすいと考えられる。

### 4. 結論

1) 空気流動ベッドを使用して褥瘡治療を受けた患者の過ごした時間の思いは4つに分類され、思いに応じた看護師の対応が必要である。

2) 空気流動ベッドを使用する患者には、早期に空気流動ベッド上の生活に慣れる為に、口頭及び視覚的説明が有効であることがわかった。

### 5. おわりに

今回の結果を踏まえて、今後、治療に対する意欲が高められるよう説明と指導に生かしていきたい。